

## 声明

日本被団協のノーベル平和賞授賞をお祝いします

2024年10月12日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

代表世話人会

10月11日、今年のノーベル平和賞に、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が決まりました。心よりお祝い申し上げます。

1945年8月、米軍が広島、長崎へ原爆を投下してから79年。非人道的な被害を世界へ告発し、「ふたたび被爆者をつくるな」と、核兵器廃絶を訴え続けてきた活動が評価されました。

日本被団協は、1956年8月10日に広島、長崎の被爆者たちが結成し、原爆被害に対する国の償いを要求する一方、核軍縮に関する国際会議に代表団を送るなど国内外で核兵器廃絶へ向け運動してきました。

2016年4月からは、核兵器を禁止し、廃絶する条約の締結を全ての国に迫る「ヒバクシャ国際署名」を国内外の平和団体と展開して、約1,370万筆を集めました。

被爆者による運動は、核兵器禁止条約（2017年7月採択・2021年1月22日発効）にも大きな影響を及ぼしました。

核兵器禁止条約については、核兵器保有国が反発し、日本政府も唯一の戦争被爆国にもかかわらず、締約国会議にも参加しない態度を続けています。今回の受賞を契機として、世界の指導者やとりわけ日本政府は、核兵器禁止条約との向き合い方を改めて、署名・批准するべきです。

ウクライナに侵攻したロシアが「核の脅し」を繰り返し、「核保有国」イスラエルがパレスチナ自治区ガザで戦闘を続け、レバノン、シリアからイランへも攻撃を拡大することで、核戦争の危険が高まっているなかでの受賞は、核戦争の回避と核兵器廃絶に向けた貴重なものとなりました。

私たち、核戦争に反対する医師の会は、今回の日本被団協のノーベル平和賞受賞を核兵器廃絶、被爆者援護を願う世界中の人々と喜びあうとともに、引き続き、核兵器廃絶、被爆者援護にむけた活動に取り組むことを決意するものです。